

びみょう

*歳にもなると、ついおじさんっぽく、「今の若者は・・・」から始まる話になってしまいますが、あえてその言葉を切り口に話をしたいと思います。

そう、その今の若者達がよく言う言葉、「びみょう」って、現代の思春期の子ども達の心性をよく映し出していると思いませんか？びみょう＝微妙とは、「繊細」「機敏」「不思議」「神秘」「壊れやすい」「傷つきやすい」という意味を含んでいますよね。今の若者達は、友人関係で微妙、微妙な感情状態、微妙な対人意識、微妙な秘密主義を持っていませんか？

びみょう＝微妙な友達関係を維持する現代の若者たち。この日誌（ひげぐま先生のひとりごと）をお読み頂いたある方が、それを「対立を避けたい意識」と見事に表現してくれました。素晴らしい感覚の持ち主だと思います。私はそうした意識が起こる背景に、やはり時代の変化を感じざるをえません。

私は昭和30年生まれ。即ち、この世に生まれ落ちてからの幼年期を高度経済成長真っ直中で育った人間です。そして、ご存じでしょうか、青年期をあの大激動の安保闘争の直後を過ごしました。学生時代、法律専攻なのに和歌を声に出して謡う葉集ゼミに、子供たちと遊ぶ指人形劇団、百名を越すバレーボール同好会を、仲間と共に始めた私に、某学生運動団体（当時）の数名の友人が、その同志確保の為か、毎晩のごとく私の下宿を訪ねてきては、「君は新安保条約をどう評価する？」と問います。私もこんな毎日ではこっちの生活が思いやられるから、その点については友達である相手を撃退すべく、友達に有無を言わせぬ論理を考えねばならぬ。必死でしたね。そこには、「びみょうな」友達関係なんてありえなかったのです。しかし、思想・信条が異なっても友達なんですね。激動の高度成長期から安定成長期に入った日本社会。高度経済成長期の「反動」として、人間関係も安定を望む社会になったことが、現代の若者の心理状態、即ち「対立を避けたい意識」になったように思います。